

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	20 / 2006 / 18
タイトル	青森市住宅街でのオオモンシロチョウ採集事例
著者名	武田昭郎

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	20 / 2006 / 18-19
タイトル	青森市郊外の菜園でオオモンシロチョウが食害
著者名	山道忠郎

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	20 / 2006 / 19
タイトル	注目!オオモンシロチョウが南下中
著者名	編集部

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森市住宅街でのオオモンシロチョウ採集事例

第10代 武田 昭 郎

シロチョウ科オオモンシロチョウ(*Pieris brassicae*)の青森県内での発生については、初期の下北半島北部や津軽半島北部での採集記録があった時期から久しいが、最近同蝶の南下傾向が顕著になってきているようである。

このことの事例として、自宅の庭で2004年、2005年にかけて、下記1のとおり同蝶を採集しているのを報告する。

また、やぶなべ会員である千葉県松戸市在住の三橋渡氏が2005年青森市の実家に帰省した折、実家の庭で同蝶を採集している旨を文献(「月刊むし」、No.418、Dec.2005—記録報告特集号—)で報告しておられるので、下記2のとおり採集データを引用しておく。

因みに、同氏の採集場所は、私の採集場所から直線距離で約900m離れている場所である。

記

1.採集事例

1♂	青森市佃3丁目	29.VIII.2004
1♀	同 上	24.IX.2005
1♀	同 上	25.IX.2005
1♀	同 上	29.IX.2005
1♀	同 上	02.X.2005

2.三橋氏の採集事例

1♂	青森市岡造道3丁目	08.VIII.2005
----	-----------	--------------

【報告】青森市郊外の菜園でオオモンシロチョウが食害 第14代 山道 忠 郎

筆者は青森市郊外で菜園を楽しんでいるが、一昨年(2004)からオオモンシロチョウに食害されているのを報告する。

1) 菜園所在地: 青森市野内菊川。旧国道4号の野内橋東側海手で下水道ポンプ場隣り。海岸から約500m。

2) 広さと栽培アブラナ科野菜: 約300坪。ブロッコリー約20株収穫、キャベツ、ダイコン、ハクサイも植えたが苗の状態だった。

最初に幼虫を発見したのは2004年夏以降で、ブロッコリーを収穫した後、わき芽の生長を待っていた



ブロッコリーを食害するオオモンシロチョウ幼虫

ら、集団で葉っぱを食い荒らしているのを発見。キャベツはモンシロチョウに食害されていた。

写真は昨年(2005)7月29日撮影で、ブロッコリーを群れで食害している。その後、11月にはハクサイを食害するのを認めている。なお、無農薬栽培である。

注目!オオモンシロチョウが南下中

(編集部)



[写真1] 成虫:上からモンシロチョウ(参考)、オオモンシロチョウ♂(翅長34mm)、同♀



[写真2] 卵:葉の裏側に数10卵をまとめて産む

オオモンシロチョウが下北・津軽両半島に侵入したのは1996年頃であるが、当時の状況については「やぶなべ会報」13号(36頁、1998年)に蝦名憲氏が「青森県にオオモンシロチョウ出現」と題して寄稿している。併読をおすすめする。同蝶が青森市に到達するまで8年かかったことになり興味深い。

さらに本種の県内での拡散状況をみると、県南地方の沿岸部、岩手県以南に分布が広がっている。しかし本県の内陸部と日本海側からまだ発見されていない。蝶に詳しいひとであれば飛んでいてもモンシロチョウと見分けつくが、一般には見過ごしてしまう場合がある。そこで、オオモンシロチョウの特徴を記しておく。

成虫はモンシロチョウより大きく、飛び方もモンシロチョウの「ひらひら型」に対して本種は「すいすい型」で力強い。青森県では5月と7~9月に成虫が羽化し、年3回ほどの発生。モンシロチョウより食性が多様で、幼虫はキャベツ・ブロッコリー・ダイコン・ハクサイ・チンゲンサイなど多くのアブラナ科野菜を食害する。卵はモンシロチョウより大きく黄色で、葉裏に数10卵をまとめて産む。ふ化した幼虫は群をつくって食害し、成長とともに摂食量も増して食べつくしてしまう。蛹で越冬し、新成虫の羽化は翌年5月。

関東圏で見たというわさも聞かすが、ちょっとした先発隊が相当の距離を南下しているのかも知れない。「やぶなべ会」の会員は各地にいらしゃるので成虫、卵の写真を掲げて注意を呼びかけたい。